

# みやぎ復興プレス

「みやぎ復興プレス」では、東日本大震災により被災された方をはじめとした復興に関わる多くの方々に、宮城の復興状況やイベント、被災者支援など、復興に関する主な情報をお届けします。メールマガジンやWebサイトとも連動し、多くの皆さまのお手元に情報をお届けしますので、よろしくお願いいたします。

目次	p1 トピックス：みやぎの防災教育充実のために
	p2 みやぎ“復興人”：南三陸町復興推進ネットワーク
	p3 月刊ココロプレス
	p4 県からのお知らせ、復興イベント情報



**メールマガジンによる配信も行っています！** 配信を希望される方は、1お名前、2お住まいの都道府県、3ご所属（個人の方の場合は不要）をメール本文に記載して [fukusuim@pref.miyagi.jp](mailto:fukusuim@pref.miyagi.jp) まで送信願います！



## みやぎの防災教育充実のために

～震災の教訓を次世代につなぐための防災教育～

### 防災主任の任命と防災担当主幹教諭の配置

県では、東日本大震災の経験を踏まえ、新たな学校防災を推進するため、平成24年度から全ての公立学校において防災主任を任命し、地域の拠点となる小・中学校には防災担当主幹教諭を80名配置しています。

防災主任は、主に自校における防災教育の指導的役割を担うとともに、保護者や地域住民、関係機関等との連携の窓口となります。また、防災担当主幹教諭は、域内（おおよそ中学校区）の学校間連携や、関係機関等との広域的な連携を図り、体制整備充実の役割を担っています。



### 防災教育副読本「未来への絆」

県では、学校における防災教育のための教材としてみやぎ防災教育副読本「未来への絆」を作成し、県内全ての小学校に配布しています。

震災の教訓を踏まえた知見を取り入れるとともに、単に知識の習得だけにならないよう、アクティブラーニング（体験学習やグループディスカッション等を授業に取り入れ、生徒の主体的な学習を促すこと）の視点を取り入れ、災害や危険が発生した時には命を守る行動につながる力を身につけるよう工夫されています。

また、震災の記憶を風化させないため、体験した児童生徒の作文や地域住民の行動記録なども載っています。県内の小学校では防災教育のための指導時間が、低学年で13.8時間、中学年で20.0時間、高学年で21.1時間と報告されており、各学校での防災教育の意識が高まっていることがうかがわれます。

なお、幼稚園、中学校、高等学校版については現在作成中で平成27年度中には配布する予定です。



### 防災教育推進協力校の取組

防災教育推進協力校（小学校14校、特別支援学校2校）では、地域や関係機関等との連携体制を整備するとともに防災教育副読本を活用した効果的な防災教育・防災管理の在り方について実践研究に取り組んでいます。

副読本を活用して危険箇所や安全な場所について学習した後、実際に通学路で危険な場所を登校班で確認しマップにまとめる学習や、親子で地域防災訓練に参加し、親子共通の学習機会をもつことで家庭や地域の防災力を高める活動など先進的な取組が展開されています。





今月号の復興人は、南三陸町の「一般社団法人 南三陸町復興推進ネットワーク」代表の及川博道さんにお話を伺いました。

●**団体を立ち上げたきっかけを教えてください。**

震災直後は、避難所運営や物資配布といった、その時必要とされたボランティア活動を行っていました。しかし、ボランティア活動というのは、ほとんどが直面している課題について一時的に実施されるものです。私達は、町の未来を考え長期的な視点に立ち、「直すのではなく、一から作り出していこう」という目標のもと団体を立ち上げました。

●**「南三陸わらすこ探検隊(以下「探検隊」)」とは、どのような活動ですか？**

探検隊では、講師として地元の有識者を「町民先生」として招き、町内の小学生を対象に魚釣りや農作業、伝統工芸体験などの南三陸町ならではの様々な体験を実施しています。震災前は、学校が終われば磯遊びや農作業の手伝いをするのが当たり前だったので、おのずと地域の自然や文化とふれあう機会がありましたが、震災によってそうした機会が失われ、本来するはずだった体験ができなくなってしまいました。それは、子供達の成長に良くない影響を与えるのではないかと不安がいつもありました。

子供達の成長にとって、様々な体験をすることがとても大切だと考えています。私達は、子供達が活動できる環境をつくってあげることで、空白となってしまう時間を少しでも埋められるようにしたいと思っています。また、活動を通して、自然環境の大切さや生活の知恵を学び、人として大きく成長して欲しいと願っています。

●**「南三陸おらほの酒づくりプロジェクト(以下「酒づくりプロジェクト」)」とは、どのような活動ですか？**

酒づくりプロジェクトでは、地元の農家の方々の協力を得ながら、休耕田などを活用して生産した酒米から日本酒をつくり販売しています。

昨年からはじめた事業なので、まだ売り上げは少ないですが、今後売り上げを探検隊の事業費に充てたり、スクールバスの増便など地域に必要な事業に取り組んでいきたいと考えています。

●**今後の抱負をお聞かせください。**

私達は町民有志が集まった団体なので、町民目線で「自分達で解決できることは、自分達で」をモットーに地域を良くしようと考えています。

南三陸町には、海や山といった素晴らしい自然があります。そうした地域資源と震災後に築いたネットワークを活かして新たなものを作り出し、町の復興に繋げていきたいと思っています。



◀探検隊での自然体験

▼スタッフの皆さん(中央が代表の及川さん)



☎ 一般社団法人  
南三陸町復興推進ネットワーク  
☎ 0226-25-9350  
<http://373net.org>  
facebook: 373net  
twitter: @373net

## 全国の皆さま ご支援ありがとうございます！

### 応援職員紹介コーナー Vol. 34



氏名 森本 晃司(モリモト コウジ)  
派遣元 奈良県  
所属 東部土木事務所

紀伊半島の真ん中、奈良県から来ました。公共事業にかかる用地取得業務を担当しています。海のない奈良県出身の自分にとって、沿岸部の景色や気候は非常に新鮮で、また住民の方も温かく、公私共に非常に得がたい経験をさせていただいております。派遣生活も2年目に入り、5月末には仙石線が全面開通されるなど、復興に向けた明るいニュースに刺激を受けつつ、復興の手助けとなるよう、精一杯頑張りたいと思います。



氏名 安田 将己(ヤスダ マサキ)  
派遣元 福岡県  
所属 東部県税事務所

豚骨ラーメンが有名な福岡県から来ました。醤油もみそもおいしいですが、福岡県が開発した「ラー麦」を使用した豚骨ラーメンもぜひ食べてみてください。宮城県は福岡県と比較して春が長く夏が短いので、暑がりの私にとっては最高の場所です。現在は、不動産取得税を担当しており、主に新築家屋の評価をしています。宮城県復興の財源確保のため、適正な課税に努めてまいります。



氏名 田中 鏡介(タナカ キョウスケ)  
派遣元 高知県  
所属 東部土木事務所

4月より坂本龍馬の故郷である高知県から派遣されました。宮城県では、災害復旧事業を担当しております。高知県での経験も少ない上、その規模の大きさや初めて経験する分野も多く苦労もありますが、周りの皆様のお力添えをいただきながら復興に向けてまい進しております。プライベートでは、仙台伝統舞踊のすずめ踊りに参加させていただいており、貴重な体験で楽しく過ごしております。「微力やけど復興の一助となるようこじゅんと頑張るぜよ。」



氏名 石橋 亜由香(イシバシ アリカ)  
派遣元 福岡県  
所属 東部県税事務所

昨年4月から東部県税事務所、新築や増築された家屋の不動産評価業務を担当しています。宮城県には可愛いご当地キャラクターが多く、休日に会いに行くことが一番の楽しみです。また、ホヤに感動しました。発災直後に何もできなかった分、今だからできることを自分なりに考えて、復興に少しでも貢献できるよう頑張ります。

「ココロプレス」は宮城県の復興を応援するブログです。

宮城の復興状況や生活再建に懸命に取り組む人々の姿、全国から寄せられる力強く温かい応援の様子などを随時発信しています。

おかげさまで1500記事・100万アクセスを超えました。



ココロプレス 検索

宮城の復興情報を募集中です!

復旧復興のPRや支援の取り組みなど、伝えたい情報を、下記メールアドレスまでご連絡ください。

fukusuip@pref.miyagi.jp

必要事項: 1取材対象/2取材希望日/3取材場所/4御担当者氏名/5電話番号

※内容や日程によってはご希望にそえない場合もございますので、ご了承ください。



2015年6月27日 土曜日掲載

被災地ツアーで見えてくるもの：南三陸町編 (南三陸町)

http://kokoropress.blogspot.jp/2015/06/blog-post\_27.html

震災の跡を訪ねる「南三陸復興ツアー」でガイドを務める社会貢献共同体ユナイテッド・アースの工藤望さん。「忘れられることが怖い、と被災した皆さんは話します。ツアーで人々が来てくれることが、心の支えになっているのです」と語ります。



2015年7月5日 日曜日掲載

大震災の教訓を生かすために～津波防災シンポジウム～ (山元町)

http://kokoropress.blogspot.jp/2015/07/blog-post\_5.html

神戸大学名誉教授の室崎益輝さん。「阪神・淡路大震災」の体験を踏まえて防災研究者の立場から「民間がアイデアをどんどん出し、行政と市民が議論し、お互いに理解し合う良い関係を築いていくことが大事です」と熱く語りました。



2015年7月8日 水曜日掲載

ヘリコプター搬送で遠隔地の医療格差の減少を (気仙沼市)

http://kokoropress.blogspot.jp/2015/07/blog-post\_8.html

気仙沼市から都市部の医療機関へ、患者の搬送や災害時の対応などにヘリコプターを運用しているNPO法人オールラウンドヘリコプター。メンバーの救急救命士・渡部圭介さんは「医療格差の解決に向けて、空から新たな挑戦です」と話します。



2015年7月10日 金曜日掲載

栗原の大地の動きを感じよう—子どもたちのジオパーク体験 (栗原市)

http://kokoropress.blogspot.jp/2015/07/blog-post\_10.html

7年前の2008年6月15日に起きた「岩手宮城内陸地震」。最大震度6強、マグニチュード7.2もの巨大地震で大きく変形した栗駒山一帯の地形を、地震を伝え防災教育に役立つ貴重なジオパークとして活用する取り組みが進んでいます。



2015年7月12日 日曜日掲載

地域の防災意識を高めよう「蒲町地域防災訓練」 (仙台市)

http://kokoropress.blogspot.jp/2015/07/blog-post\_12.html

仙台市立蒲町小学校で行われた「地域合同防災訓練」。学校と地域が協力して、毎年開催されています。今年はNPO法人防災士会みやぎの方々が講師として招かれ、漫画やクイズを駆使した講演に低学年の子も熱心に聞き入っていました。



2015年7月13日 月曜日掲載

女川町の魅力がぎゅっと詰まった「あがいんステーション」 (女川町)

http://kokoropress.blogspot.jp/2015/07/blog-post\_13.html

方言の「あがいん (召し上がれ)」と英語の「again (再び)」とで「再び笑顔あふれる街に」「女川のおいしいものを食べてほしい」。駅前地区の商業施設第1号、女川水産業体験館「あがいんステーション」がオープンしました。



宮城県被災者転居支援センターについて

宮城県では、7月1日から「宮城県被災者転居支援センター」を設置し、応急仮設住宅の供与期間終了に向けて、住宅再建（確保）方法等が未定の方の新たな住まいの確保等を支援する取組を進めています。

再建方法が未定の入居者に対して、支援センターでは、市町から提供される入居者情報等に基づき戸別訪問による相談支援を行うほか、各世帯の課題に応じた福祉サービス等の紹介を行っています。

ご利用を希望される方は、まずはじめに被災した際に住んでいた市町村へご相談ください。

☎ 県震災援護室 ☎ 022-211-3257

JRに乗って奥松島を楽しもう！  
『奥松島周遊 ぐるっと号』試験運行

JR野蒜駅発着で奥松島方面の観光地を周遊する、乗合ジャンボタクシー『奥松島周遊 ぐるっと号』を、土日祝日限定で、1日6便を定時運行しています。（予約制）

奥松島縄文村での縄文体験や大高森からの大パノラマ、遊覧船から見る大迫力の嵯峨溪など、魅力溢れる奥松島へ、JRに乗って是非お越しください！

運行日：10月31日（土）までの土日祝日  
運賃：1乗車あたり300円（未就学児無料）  
予約先：奥松島観光タクシー  
☎ 0225-88-3048（午前10時～午後4時）

☎ 県東部地方振興事務所 地方振興部  
☎ 0225-95-1767  
URL：<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-e/gurutto.html>

「中村雅俊が行く 伊達な海道探訪 みやぎでのふれあいを求めて」のテレビ放送について

俳優で歌手の中村雅俊さん（宮城・女川町出身）が、地元の人々とのふれあいを求めて、宮城県沿岸部を巡ります。そして、各地の「ここでしかできない体験」と、「ここでしか食べられない絶品グルメ」を、美しい映像で紹介。また、中村さんを迎える地元の人たちの「おもてなしの心」にも注目です。果たして、どんなふれあいが待っているか？番組のナレーションは、宮城・仙台市出身の佐藤渚（TBSアナウンサー）が担当します。

放送日：毎週日曜日 昼0:54～1:00（TBS）  
※番組のホームページでは、過去の放送分も動画で御覧いただけます。[http://www.tbs.co.jp/kaidoutanbou\\_tbs/](http://www.tbs.co.jp/kaidoutanbou_tbs/)

☎ 県観光課 ☎ 022-211-2823

復興 イベント情報

凡例 ☐ 日時、期間 ☑ 場所、会場 ① 内容等 ② 問い合わせ

第5回 三陸海の盆(気仙沼市)

「三陸海の盆」は、第1回より岩手県で毎年開催され、今年初めて宮城県において開催されます。震災からの“心の復興”を目指し三陸各地で活動する郷土芸能団体が一堂に会し、群青の海に鎮魂の歌舞を捧げます。

☐ 平成27年8月11日（火）10:00～18:00

☑ 気仙沼市唐桑町 御崎観光港

☎ 第5回三陸海の盆実行委員会事務局

☎ 0226-32-4048

唐桑町観光協会

☎ 0226-32-3029

わたりふるさと夏まつり(亶理町)

亶理町の夏の風物詩「わたりふるさと夏まつり」。5年ぶりに実施される山車と踊りのミニパレードのほか、追悼供養行事（灯籠流し）が行われます。また、鳥の海周辺では約2500発もの花火が打ち上げられ、大輪の花々が夏の夜空を彩ります。

☐ 平成27年8月15日（土）13:00～20:30

☑ 亶理町荒浜漁港周辺

☎ 2015年わたりふるさと夏まつり実行委員会

（亶理町商工観光課内）

☎ 0223-34-0513

松島流灯会 海の盆(松島町)

霊場松島としての供養を大切にしながら夏祭りの賑やかさを楽しむ「松島流灯会 海の盆」を松島海岸中央広場で開催。会場を提灯で照らし、灯籠流しや盆踊りを行います。

☐ 平成27年8月15日（土）18:00～  
16日（日）18:00～

☑ 松島海岸中央広場周辺、五大堂周辺、瑞巖寺周辺

☎ 松島流灯会 海の盆事務局（松島観光協会）

☎ 022-354-2618

第26回広瀬川灯ろう流し 光と水とコンサートの夕べ(仙台市)

広瀬川河川敷を舞台に繰り広げられる光と水と音の祭典。約3000個の灯ろうが川面に揺らめく様は、美しく幻想的。周囲には屋台がならび、さまざまなイベントが催されます。地元高校生による「光と水とコンサートの夕べ」も必見で、フィナーレの川中から打ち上げられる花火大会は圧巻です。

☐ 平成27年8月20日（木）15:00～21:00

☑ 仙台市広瀬川河岸宮沢橋下特設会場

☎ 広瀬川灯ろう流し事務局（長町駅前プラザ）

☎ 022-304-2321

イベントの日程・内容などは変更される場合がありますので、お出かけ前に、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

みやぎ復興プレス 第39号

【発行日】平成27年8月1日 【発行】宮城県震災復興本部（事務局：震災復興推進課）

電話：022-211-2408 e-mail：fukusuif2@pref.miyagi.jp

宮城県ホームページ「震災復興推進課」

URI <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/fukusui/>

「震災・復興」

URI <http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/>

